

Think
Sense
Study
Action

内田直之が、「考えたこと」「感じたこと」「学んだこと」「行動したこと」を皆様にお伝えする紙上ブログです。

内田直之のオフィシャルサイトが新しくなりました！
ソーシャルネットワークや動画を使って、さらに情報発信を充実させていきたいと思ひます。ぜひ新しいホームページにアクセスして下さい！

uchida
naoyuki
.com



高高度防災都市 千代田への 提言

内田直之が考えたこと

阪神淡路大震災から20年

1995年1月17日、阪神淡路地域を襲ったM7.3、震度7の激震は、死者6434名、建物被害約25万棟にも及ぶ、戦後最大規模の都市型震災となりました。倒壊した高速道路や中間階層が潰されたビルの映像は衝撃的でした。当時トステムの開発部門に在籍していた私は、神戸市にて被災状況の調査を行いました。建物では、高層ビルや1981年（昭和56年）に改正された新耐震基準で建築された建物は被害が少ない状況でした。地震発生が早朝で、多くの人が自宅で就寝中だった事もあり、死者の80%が古い木造住宅の倒壊による圧迫死でした。また、この大震災では、高齢者を中心に精神的ストレスや環境悪化によるインフルエンザの影響、コミュニティ崩壊による孤独死などによる、いわゆる関連死として約940人が報告されています。



国内のみならず世界中に衝撃を与えた阪神淡路大震災は、その後の社会に大きな影響を与えました。震度階層の詳細化、緊急地震速報の構築、緊急消防援助隊の制度化、自衛隊法の改定、災害対策基本法の改定など多くの災害対策が強化されました。そして、身近なところでは、建物の耐震改修促進法が制定されました。また、地域コミュニティやボランティアによる市民支援の重要性も指摘され、日本のボランティア元年と言われるようになりました。

切迫する首都直下地震と 南海トラフ巨大地震

東京都が想定している大規模地震である「首都直下地震」は、M7以上の地震が今後30年以内に発生する確率は70%と言われ、多くの人的被害が想定されています。もうひとつの大規模地震は「南海トラフ巨大地震」です。最大M9、今後30年以内に発生する確率は70%と予想されています。

東京都が公表した「首都直下地震による被害想定」を受け、千代田区でも被害想定

を行っています。被害が最大となる東京湾北部地震（M7.3）では、区内のほぼ全域が震度6強となり、人的被害では、死者数が336人・負傷者数は1万2,858人、物的被害では、建物被害が2,610棟、帰宅困難者は約50万人、自立脱出困難者4,417人と予測されています（在勤者を含む）。注目すべき点は、死者数、負傷者数のほぼ全てが建物被害による事です。千代田区における地震対策は、建物の耐震対策であると言っても過言ではありません。

一方「南海トラフ巨大地震」では、新たに長周期地震動が注目されています。高層ビルや高層マンションなど、大規模な建築物に大きな影響を与えることが指摘されています。

千代田区に存在する高さが60mを超えるマンションを独自に調査してみました。パークコート千代田富士見（高さ149m）、ワテラスレジデンス（高さ165m）など、区内には21棟のタワーマンションが存在しています。その中で、東日本大震災以前の建築物16棟では「長周期地震動」に配慮されていない可能性があります。タワーマンションにおいては「首都直下地震」ばかりではなく「南海トラフ巨大地震」にも備えることが必要です。

千代田区における3つへの提言

2020年にオリンピック・パラリンピックを開催する東京にとって、首都直下地震や南

海トラフ巨大地震への備えは何よりも優先されなければなりません。多くの犠牲を払った阪神淡路大震災は、次の世代に貴重なデータと経験値を残してくれたと思います。区民の生命と財産を守る事こそが、千代田区にとって最も優先度が高いテーマです。建物の倒壊を防ぎ、千代田区の被害者ゼロを目指す為にも、特に重点政策として3つの提言を行います。

- ①耐震診断・耐震改修の100%実現
耐震診断・改修の助成の拡充、立替や共同化の促進による面的な耐震性向上により、平成25年度時点の耐震化率、住宅（約3万戸）88%、特定建築物（約1,330棟）86%、公共建築物（59棟）96%を全て100%とする。
- ②老朽危険家屋対策
老朽危険家屋の現状把握を早急に行い、撤去等の行政代執行が可能となる条例化を推進。
- ③ボトムアップによる地区防災計画の策定
人材育成や意識啓発にも繋がる、地域住民が主体となったボトムアップ型の地区防災計画を避難所毎に策定。

千代田区や東京における高度防災都市の実現は、私にとって生涯の仕事と考えています。区内全域が、避難不要な「地区内残留地区」に指定されている千代田区において、耐震対策の100%実現は、被害者をゼロに出来る唯一の政策となります。被災する前からまちの在り方を検討する事前復興を推進し、日本で最も「災害に強く、安心で安全なまち千代田」を創って行きたいと思ひます。

Sense

世界の街歩き

バンコク (タイ王国)

人口828万人
面積1569km²
立憲君主制

アジア屈指の大都市であるバンコクを初めて訪れたのは1987年でした。初めて国際線に乗り、期待と不安で少し緊張しながらラップを降りたことを、よく覚えています。それから、数えきれない

程にバンコクを訪れ、遂には2000年～2002年に駐在するなど、今では第2の故郷となりました。

タイの政治・経済・文化の中心であり、国際都市でもあるバンコクは、高層ビルと美しく厳かな寺院が共存した本当に魅力的な街です。街角の屋台で食事をすれば、明るく強かに生きる人々の暮らしに接することができます。

日本とタイは、600年にわたる交流の歴史があり、特に皇室とタイ王室は親密な関係が保たれています。経済的

な結びつきも強く、バンコクには4万人以上の日本人が暮らし、日本人にとっては大変住みやすい海外の都市のひとつと言われています。私も将来、暖かいバンコクで暮らせるよう、手なタイ語の勉強を再開しようと思ひています。



Action

内田直之が行動したこと

内田直之のチャンネルを開設しました！
内田直之のオフィシャルサイトに、動画発信コンテンツである、内田直之チャンネルを新たに設けました。千代田区議会での私の質問や区長や関係理事者の答弁を、政策



テーマ別に放映しています。それぞれ5分程度と見易い時間に編集しています。また、新たに内田直之PVも配信していますので、是非ご覧下さい。



Study

内田直之が学んだこと

『区政報告会2014』を開催！

今回も、多くの皆様にお越し頂き、本当にありがとうございました。田中秀樹後援会長のご挨拶に続き、ご来賓の参議院議員の中川雅治様、丸川珠代様、衆議院議員の山田美樹様、そして、内田茂都連幹事長から、温かいご激励をいただきました。また、恩師である明治大学大学院教授（元副知事）の青山伸先生には「私たちは後藤新平から何を学ぶべきか」と題とした特別講演をお願いしました。

私からは活動状況、千代田区の財政状況、区の重要課題である「首都直下地震対策」と「待機児童対策」についてご報告させて頂き、最期に錦連会長の紅林公克様の手締めにより、閉会となりました。内田直之の政治活動の原点である、タウンミーティングと区政報告会を、今後とも続けて参りたいと思ひます。皆さまのご参加を、心よりお待ちしております！



2014年10月26日 ベルサール神田

平成26年第3回区議会定例会

1. タワーマンションの
長周期地震動対策

【問題の背景】

超高層マンションやタワーマンションと呼ばれる建築物が千代田区内にも数多く見られます。千代田区では現状を把握していない為、独自に高さ60mを超えるタワーマンションを調査してみました。先頃完成した「パークコート千代田富士見」は地上40階・高さ149m、昨年完成した「ワテラスタワーレジデンス」は地上41階・高さ165mなど、区内には21棟のタワーマンションが存在しています。全てが1981年の新耐震基準後の建築物であり、構造的には安全であると言えます。

一方、その中で、2011年の東日本大震災以前の建築物16棟では、長周期地震動に配慮されていないことが予想されます。タワーマンションにおいては「首都直下地震」だけでなく長周期地震動の被害が想定される「南海トラフ巨大地震」にも備えることが必要です。

気象庁では高層ビルにおいて、地震時の人の行動の困難さや、家具や事務機器の移動・転倒などの被害の程度が、震度では分かりにくいことから、新たな指標として「長周期地震動階級」を、2013年より試行的に公表しています。気象庁の予算要望書によると、2016年から「長周期地震動情報」として発表を開始する予定です。

【質問】

「南海トラフ巨大地震」の被害想定と長周期地震動対策を早急に検討すべきと考えます。併せて、千代田区内にあるタワーマンション21棟に対して、耐震対策や防災設備、防災体制などの実態調査を行う事を提案する。

【区(執行機関)の答弁】

タワーマンションの長周期地震動対策については、現在、内閣府や文部科学省地震調査研究推進本部において、南海トラフ巨大地震や首都直下型地震の検討が行われている。国土交通省では、こちらの地震による超高層建築物への影響を調査し、長周期地震動対策試案を見直し、パブリックコメントを行った上で、設計用地震動の見直しを行う予定と聞いている。

区内のタワーマンションについても、こうした検討結果を踏まえ、ご指摘の実態調査や必要な措置を検討し、適切に対応していく。最終的な判断は国の対応、検討結果を待つが、当面、私どもの活動としては、屋内の被害を未然に防ぐために、例えば家具や事務機器、または家電製品をしっかり固定するなどの自助努力に対しての普及啓発に引き続き取り組みたいと考えている。

2. 地域防災力の向上

【問題の背景】 2014年版の「防災白書」では特に共助に焦点を当て、地域防災力強化の方向性を検証する特集が組まれています。特集では、①一般的な地域活動の活性化、②防災に関する人・組織の整備・充実及び、行政による情報支援の強化、③事業者と地域住民との連携や共生の促進等が、地域防災力の向上につながる可能性があるとし、更に、地域コミュニティの活性化にも寄与することを指摘しています。国や東京都と連動した千代田区としての地域防災計画は当然必要ですが、一方では、地域住民が主体となり、地域の課題を自ら解決していく、

ボトムアップ型の地区防災計画を作ることが、人材育成や意識啓発にも繋がるのではないかと考えます。

地震だけではなく、気候変動の影響と思われる様な集中豪雨や記録的な猛暑、またはデング熱などの感染症まで、私たちは多くの災害を想定しなくてはなりません。ヒューマンスケール的には、避難所毎が適当だと思われます。住民主体の「避難所運営協議会」が、更に活性化することを期待しています。

【質問】

内閣府が公表した「防災白書」では、特に「共助」による地域防災力の向上を提言している。千代田区の地域特性を踏まえた「共助」の在り方及び、地域防災計画の可能性と課題をどう認識しているか？

【区(執行機関)の答弁】

避難所運営協議会は住民自らが立ち上げることを想定しており、また帰宅困難者対策としては区内4つの帰宅困難者対策地域協力会が設立されているが、82万人もの昼間人口を有する本区では、区民のみならず事業所や帰宅困難者等を含めた、千代田区に関わる全ての人々が相互に助け合い、支え合って減災に取り組んでいくという新しい理念が必要。

今後とも地域防災計画改定の際に行っているパブリックコメントや防災対策に女性の意見を取り入れるために設置している防災女性部会からのご意見もあわせて、地域コミュニティからのボトムアップ型の防災活動計画の策定を支援、後押しをしていきたい。

平成26年第4回区議会定例会

1. 電線類の地中化100%と
首都高速高架橋の撤去

【問題の背景】 この3月には中央環状線が全線開通し、2020年には三環状道路(中央環状線、外環、圏央道)の9割が開通予定です。完成すれば、都心3区の通過交通61%が排除できると試算されています。私はそれを契機に、都心環状線と環状3号線内側の首都高速高架橋を廃止し、合わせて水辺を再構築することを提案致します。例えば、日本橋川にかかる首都高速高架橋撤去により解放される水面面積は約16haとなり、日比谷公園と同じ位の空間を創出できることになります。

次に、ロンドンでは既に1800年代に電線類地中化の方針を固めて以来、欧州主要都市では、ほぼ100%、その他の先進国都市でも80%前後の地中化を達成しています。一方、千代田区の地中化率は43%で、東京23区(7%)と比べると進んでおり、区内の国道、都道はほぼ100%完了しています。今後は、千代田区道路延長の78%を占める区道での整備が求められています。その中で、整備可能な幅11m以上の区道約49kmでの地中化率は、現在、約66%まで進んできました。

電線類の地中化は、安全な通行空間の確保をはじめ、都市景観や都市防災機能の向上など、さまざまな効果があります。2020年の東京五輪開催時には、都心の千代田区からは、汚い電線類が一扫され、安全で、美しく、バリアフリーな街並みが完成していることを期待しています。

【質問】

千代田区都市計画マスタープランに、首都高速高架橋の撤去と、整備可能な道路における電線類の地中化100%を明確に示し、「人が主人公のエココンパクトシティを創る」という強い意思を発信し続けることを提案する。

千代田コラム
九段会館

九段下にある九段会館は、1934年(昭和9年)に軍人会館として建設された、代表的な帝冠様式の建物です。小野武雄(基本設計)、同潤会アパートを手掛けた川元良一(実施設計)による鉄筋コンクリート造4階建は、洋風の本体に和風の屋根を載せた和洋折衷の建築様式です。1930年代の日本は、ナショナリズム台頭の時代でしたが、政府や軍部がこの様式を推進した訳ではなく、国際的デザインであったモダニズム建築に対抗して発生したと言われています。

微妙なデザインではありますが、旧満州や台湾を含めても既存例は少なく、日本の近代建築を語る貴重な建築物であることは間違いありません。1936年(昭和11年)には二・二六事件の戒厳司令部が置かれ、戦後は連合軍最高司令官総司令部(GHQ)により接収されるなど、近代日本史的にも意義ある建築物です。国により解体の方針が出ていますが大変残念に思っています。千代田区には、近代日本を象徴する建築物が多数あります。私たちは、都市の機能更新を進めると同時に、これらの貴重な歴史遺産を次世代へ引き継ぐ事が大切だと考えています。



【区(執行機関)の答弁】

首都高速道路は、日本で初めてのオリンピック開催を契機に、増大する自動車交通への対応等により、既存の道路、川の上空などを活用し、建設されたものである。首都高速道路の撤去については、水辺空間の創出、まちとの連携、景観形成上の観点等から大きな要因であると認識しているが、都心の大動脈を支える都市交通であるため、広域的な観点から位置付けされ、一自治体の都市計画マスタープランへの位置付けは困難だと考えている。

次に、電線類の地中化は、災害時の円滑な救援・救助活動にも資する歩行者空間の確保や景観の向上にも寄与することから、積極的に推進すべきものと考えている。については、区の取り組みはもとより、まちの機能更新等の機会を捉えて、電線類の地中化を進めていく思いは、数値目標まではいかないまでも、物差しとして掲げたいと考えている。

2. 小・中学校校庭の人工芝化

【問題の背景】 富士見小学校の校庭を芝生化したことで、年間4割以上も使用できないことが問題になっています。そこで、区立小・中学校11校の校庭を仕様別に見てみますと、天然芝が1校、人工芝が1校、土が1校、アクリル舗装が1校、そしてゴムチップ舗装が7校となっています。主流となっているゴムチップ舗装も、運動性や安全性では天然芝や人工芝には及ばず、表層に水が溜まり滑りやすい、劣化しひび割れが発生する、表面温度が70℃程度まで上昇するなど、幾つかの問題も指摘されています。

天然芝が理想であることは、言うまでもありません。しかし、一般的にも年間3~4か月の養生期間は使用できない、雨天または雨天後に使用すると芝を傷つけ、回復に1~2週間以上養生が必要になる、1週間に4~5時間以上同じ場所を使用すると死滅する、多額な管理費がかかる、5~10年で芝の全面廃棄、改修を要するなど、多くの問題点があります。

一方、人工芝は、雨天、雨天後も含め、1年中使用できる、メンテナンスフリーであるなどのメリットがあります。最近の人工芝は、バイオポリエチレンを主素材としたものや、ゴムチップに変えて天然の植物繊維が使用されています。更に、保水性により表面温度を抑制し、ヒートアイランド対策にも効果が期待できるなど、環境に優しい仕様となっています。天然芝と同等のクッション性を実現し、膝や腰への負担も軽減されています。人工芝の校庭が児童に与える影響としては、天然芝と同様に児童の運動遊びが多様化し、ゴ

ムチップ舗装校庭に比べ、児童にとって魅力的な校庭であることが調査により明らかにされています。

【質問】

都心に位置する千代田区の小・中学校の校庭には、人工芝が最も適していると思われる。富士見小学校校庭の事例に学び、子ども達の育成を最優先に考えた、校庭の人工芝化を提案する。

【区(執行機関)の答弁】

富士見小学校校庭の芝生につきまして、児童、教職員、保護者、地域、利用者の方々の声を聞くべく、アンケート調査を実施している。本調査の結果を踏まえ、校庭芝生化によるメリット、デメリットについては、議論のあるところではあるが、改めて検討し、方向性を出したいと考えている。

学校校庭は、いずれの仕様でも、安全性、機能性を確保するため、適切な維持管理は必要であると考えている。昨今の人工芝の技術革新も視野に入れつつ、校庭を使用する子どもたちにとって何が最善かを最優先に考え、いましばらく研究していく。

街づくりへ、プロの視点。

内田直之(うちだ なおゆき)

1964年、熊本市生まれ B型。
1984年国立有明専ら建築学科を卒業、トステム株式会社(現LIXIL)入社。総合企画室主任、海外赴任(バンコク)を経て商品企画室長となり、主力商品の経営戦略・商品戦略、多くの開発プロジェクトに携わる。働きながら明治大学公共政策大学院を修了。2011年より千代田区議会議員。一級建築士。

●学歴

国立有明専ら建築学科 卒業
明治大学公共政策大学院 修了

●職歴

トステム株式会社(現LIXIL)

●所属団体

千代田区サッカー協会 会長
社団法人 東京建築士会
明治大学校友会千代田区地域支部 副支部長
明治大学公共政策大学院 都市政策フォーラム
NPO法人 Football Community 千代田 顧問
NPO法人 神田学会

●内田直之事務所

〒101-0041 千代田区神田須田町1-30 スナミビル3F
Tel/Fax 03-3252-8832
Web www.uchidanaoyuki.com
e-mail uchida@tcn-catv.ne.jp